

# 農山村地域復興基盤総合整備事業

## 今後の圃場整備に期待することとは？

### ま ちかこ インタビュー

原発事故後の翌年11月、ゼオライト散布での除染対策に異議を唱えた亀ヶ崎地区住民と、国が進める農地の大規模化政策を合わせ、事故被災地12市町村を対象に「圃場整備事業」がスタート。本年、農業の復興と効率化された力強い農業への第一歩が踏み出されました。地域関係者の声をお聞きしました。



新妻 良平さん  
(東下地区)

私の住む折木上地区では現在圃場整備が行われています。大規模な圃場整備は二度目です。今後五十年、百年と当該地区の農業の基盤となる重要な工事である。この工事にかかわるものとして、次の世代に自信をもって渡せるものにしてい

かなければなりません。

震災後、農業の在り方も変わり、より効率的で高付加価値な農業が求められています。

私は現在、工事の済んだ圃場で農林水産省の中山間地域におけるスマート農業の実証事業に取り組んでいます。今回の圃場整備を契機に農業が魅力ある職業として次の世代に感じてもらうよう取り組んでいきたいと考えています。



黒田 勲さん  
(北沢地区)

まだ着工されていませんが、地域資源を活かした農業の復興と活性化、自然災害に強い圃場整備事業に期待しております。町内において先行している各工区において、大量の石や客土、用排水路などの整備事業に懸念を持っています。計画通り着工されることを強くお願いし、数十年後の農業に希望を持ちたいです。

### 編集後記

議場でも新型コロナウイルスウィルス感染症対策を行い、6月定例会を開きました。傍聴者にもマスク着用をお願いし、一般質問などを多くの方に傍聴いただきました。地球規模のパンデミックに打ち勝つことができずよう、私たちもできる限りの対策を徹底して、お互いの身を守るように頑張りたいと思います。



梅雨を彩る紫陽花

6月に入り、青や紫、ピンクなどの紫陽花が町内を彩っています。いつからか、母の日には色鮮やかな紫陽花の鉢植えを送ることが増えたようです。6月定例会の「議会だより」をお届けできるのは暑さ真つ盛りの7月半ばです。新型コロナウイルス感染症のワクチンや特效薬が早く開発され、少しでも早く鎮静化していくことを願います。

- 発行・編集責任者 議長 北郷幹夫  
 広報委員会 委員長 阿部憲一  
 委員長 渡邊正俊  
 副委員長 小磯利雄  
 委員 畑中 大子  
 委員 北郷 伯弘

次の定例会は9月です